

TAKE  
FREE  
夏

2025.Summer  
[No.506]

# With

J A 愛知厚生連広報誌



病院特集

渥美病院

特集 | 令和6年度 業務報告ハイライト

## 業務報告ハイライト

令和6年4月1日～令和7年3月31日

## 令和6年度を振り返って

## 様々な課題が多発同時に発生

診療報酬のマイナス改定

新型コロナ補助金・診療報酬特例の廃止

物価高騰

医師の働き方改革

医療・介護人材の不足

## 基本姿勢

「地域とともに、地域医療を守り抜く。」ことを基本姿勢として地域医療を守り抜くための3本柱に取り組んできました。

## 地域医療を守り抜くための3本柱

前方連携の強化

戦略的広報の実施

健診の強化

## JA版ウェルビーイング運動

- 第17回JA大会において、組合員（組合員となる地域住民）、職員の心・体・お金の「健康」を目指し、「農業」「くらし」「JA経営」の分野において、活動と事業の好循環によって実現していく「JA版ウェルビーイング運動」に取り組むことになりました。



※詳しくはP6をご覧ください。

## 医療事業

## 地域での役割に応じた医療提供体制の構築

## 大規模病院

地域医療の中心的役割を果たすため、高度急性期・急性期医療の充実を図ります。

## 中規模病院

その地域にふさわしいバランスのとれた医療提供体制の構築に努め、地域の急性期・回復期・慢性期医療を提供します。

## 診療機能の充実

- 安城更生病院では、悪性リンパ腫等の治療法であるCAR-T療法の治療件数が大幅に増加しました。
- 内視鏡手術支援ロボット（ダヴィンチ）を安城更生病院が増設、海南病院が更新しました。江南厚生病院では、人工関節手術支援ロボットを導入しました。



## 医療の質向上への取り組み

- 安城更生病院・江南厚生病院では、病院機能評価の認定を受けました。
- 江南厚生病院では、医療の質向上を目指して「医療の質管理部」を新設しました。

## 地域連携への取り組み

- 海南病院では、満床による救急搬送不応需抑制のため、三次救急以外で対応可能な救急患者を初期診療後に近隣病院へ搬送する下り搬送を開始しました。安城更生病院・豊田厚生病院でも運用開始に向けて準備しています。
- 中規模病院では、近隣の三次救急病院等からの下り搬送を受け入れるとともに介護施設等との連携強化によるサブアキュート患者の受け入れを強化しました。



## 災害医療

- 各事業所において大規模災害を想定した災害訓練を実施しました。
- 8月の「南海トラフ地震臨時情報」発表の際には厚生連災害対策本部を立ち上げ、情報収集と職員に対する情報発信を行いました。



第十七次中期計画の初年度となる令和6年度は、厳しい経営環境により事業損益は1,857百万円（予算対比97.7%、△43百万円）と当初予算を下回りましたが、退職給付債務の減少による特別利益の増加により当期剰余金は5,600百万円（予算対比151.5%、+1,904百万円）と当初予算を上回ることができました。これからも地域医療を守り抜くために、様々な課題に職員一丸となって取り組み、地域に必要とされる医療・保健・福祉を提供してまいります。

代表理事理事長 宇野 修二



## 経営管理

## 経営改善の推進

- 医薬品や診療材料、給食材料等の購入について、8病院のスケールメリットを生かすることで費用削減に努めました。
- 価格が高騰している電子カルテシステムについては、持続可能なシステム更新に向けた研究を開始しました。

## 人事給与管理

- 人材確保に向けた方策として、初任給調整手当の増額、診療報酬・介護報酬改定に対応した手当の新設を行いました。



## 人材育成の充実

- 人材育成準備室を設置し、8職種において教育担当者会議を開催し、ラダーの整備に取り組みました。

## 広報の実施

- JA愛知厚生連の認知度向上と採用強化を目的に新たにCM動画「円陣」篇を制作し、テレビCM・Web広告を実施しました。



## 第77回 通常総会 全議案原案通り可決

2025年6月30日、JAあいちビルにおいて通常総会が開催されました。

## 報告事項

- 1. 第77年度(令和6年度)貸借対照表、損益計算書、注記表及び附属明細書について

## 決議事項

- 第1号議案 第77年度(令和6年度)事業報告及び剰余金処分案について

## 附帯決議案

この総会において決議した事項のうち、権利義務に關係しない軽微な事項の修正及び違算、誤字の訂正並びに法令その他行政庁の指示等により補正変更を必要とする場合には、その主旨に反しない範囲内においてその変更を代表理事理事長に一任する。

以上の議案について承認可決されました。

# 渥美病院のリハビリテーション

特集  
2



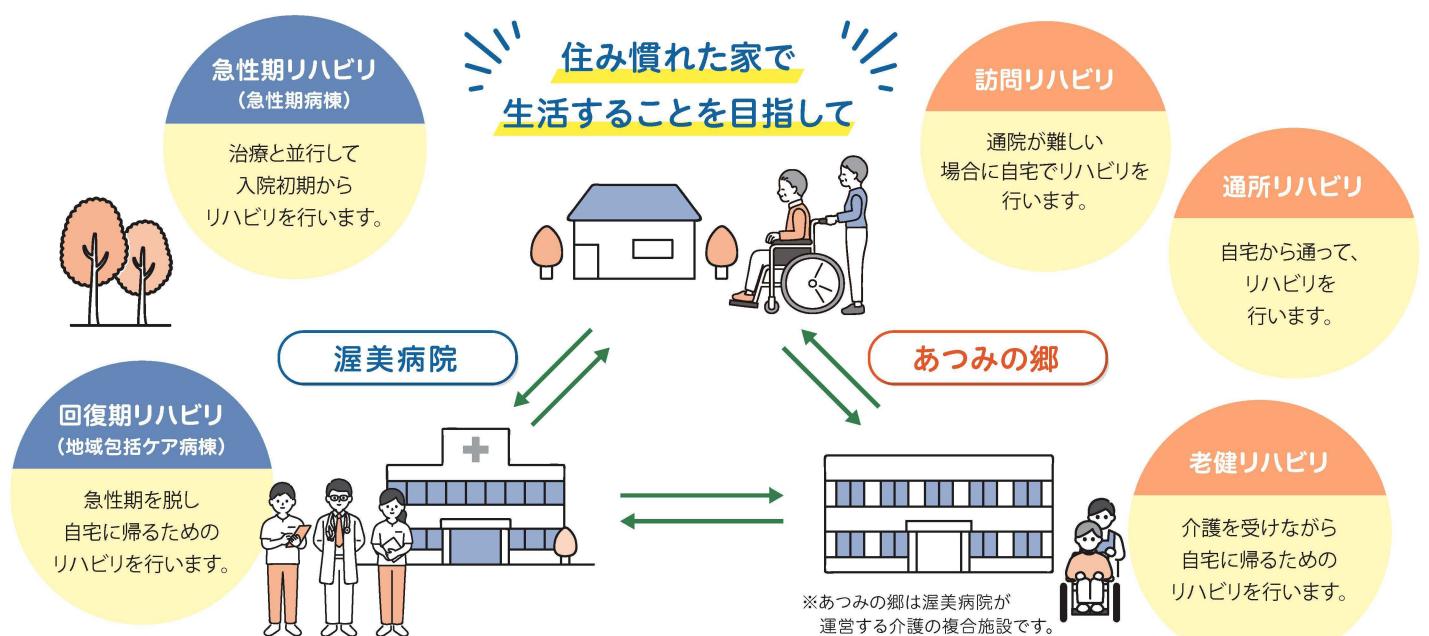
渥美病院とあつみの郷を合わせて理学療法士 27名、作業療法士 11名、言語聴覚士 8名、補助者 2名のリハビリスタッフが働いています。



地域とともに歩む

渥美病院のある田原市にはリハビリテーション施設が極めて少ないため、お子さんから高齢の方まで幅広い世代の方に様々なリハビリテーションを提供しています。医師や看護師、地域連携室のスタッフなどの多職種が連携することで患者さん一人ひとりの状態や目標に応じた支援を行っています。約50名のリハビリスタッフは、患者さんやご家族の日常生活がより快適になるように専門性を発揮し、サポートの充実を目指しています。

## 高齢社会の今、医療から介護まで切れ目なくリハビリテーションを提供



### 多職種協働でリハビリを提供

医師や看護師と相談しながら、リハビリを重点的に行う必要がある患者さんには、入院早期から関わり、必要なリハビリを十分な期間提供できるように心がけています。



### 退院に向けた支援

リハビリスタッフが退院前に患者さんご自宅を訪問し、必要な福祉用具などを提案しています。

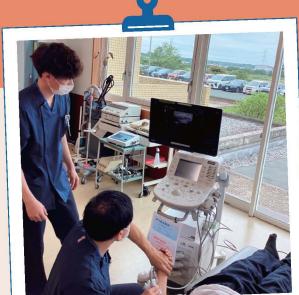
## 専門性を生かしたリハビリの取り組み

### 痙縮に対するボツリヌス療法

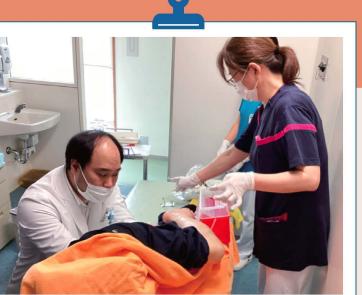
脳卒中後などにみられる筋肉のつっぱり「痙縮」は、日常生活に支障をきたしたり、リハビリーションの妨げになることがあります。ボツリヌス療法は、ボツリヌス菌が作り出すタンパク質(ボツリヌストキシン)を有効成分とする薬を筋肉内に注射することで、筋肉の緊張を和らげます。さらにリハビリテーションを併用すると、より高い治療効果が期待されます。

#### TOPICS

ボツリヌス注射により筋肉が動かしやすくなった状態で、患者さん一人ひとりに合ったプログラムで集中的に運動療法や日常生活訓練などを行うことにより、日常生活動作の改善、装具の適合性向上などを目指しています。



▲対象となる筋肉をエコーで確認



▲医師が注射を実施

#### STAFF VOICE

痙縮が原因で困難だった日常生活動作が、少しずつ「できる」に変わっていく過程に携われることにやりがいを感じます。

作業療法士 松井 雄平さん



### 小児発達リハビリテーション

子どもの発達を支援する療育機関としての役割も担っており、主に就学前のお子さんを対象に、ことばやコミュニケーションを中心に発達全体の支援を行っています。

#### 小児発達支援の内容

- 自閉スペクトラム症のお子さんには、ことばの理解や表現に加え、人との関わり方や気持ちをコントロールする方法などを、遊びや課題を通して学べるよう支援しています。
- 吃音(どもり)や機能性構音障害(発音の未熟さ)のお子さんには、訓練を通じて「話す楽しさ」を感じてもらえるよう関わっています。
- 感覚統合の視点を取り入れ、感覚のアンバランスがことばや行動に影響している場合には、遊びを通じて感覚の調整をはかり、より集中しやすく、動きやすい体づくりを目指しています。



おもちゃを  
使い言葉の  
発達を支援



多様なお子さんたちとの関わりに悩むこと  
もありますが、お子さんの  
可能性を広げ、少しでも成長  
の手助けができることに  
やりがいを感じます。

言語聴覚士  
末武 優佳さん

#### TOPICS

地域の保育園や子ども園、田原市の子育て支援課とも定期的に連携をとりながら、お子さん一人ひとりに合わせたプログラムで、ことばだけでなく「楽しく伝える力」「安心して過ごす力」を育てるこを大切にしています。



様々な世代の個性豊かなスタッフ達が「地域とともに歩む」という共通目標のために患者さんやその家族と同じ視点で寄り添えるように日々精進しています。今年度は部署の取り組みを広く知っていただくために渥美病院の公式Instagramへ積極的に投稿していきます。是非ご覧ください!

リハビリテーション室長 中井 智博さん

渥美病院  
Instagramは  
こちら



TOPICS  
4~6月

# Hot Topics

夏

2025.SUMMER

# INFORMATION



4/1 JA愛知厚生連

令和7年度入会式・研修会を行いました。

4月1日、刈谷市総合文化センターにおいて令和7年度入会式・研修会を開催し、509名の新入職員が参加しました。入会式では、新入職員全員の名前を読み上げ、各病院の代表者が辞令を受け取りました。宇野理事長は「笑顔とチームワークを大切にして、明日から頑張ってください。」と新入職員を激励しました。新入職員の代表として足助病院の看護師の丸山情加さんが「一日も早く地域医療に貢献できるように頑張ってまいります。」と抱負を述べました。



5/14 JA愛知厚生連

「愛知県看護大会」にて看護功労者表彰を6名が受賞しました。



5月14日、ウインクあいちで行われた「令和7年度愛知県看護大会」にて愛知県知事よりJA愛知厚生連から6名が看護功労者として表彰を受けました。愛知県では毎年看護週間(看護の日を含む1週間)の期間中に、長年にわたり看護に従事し顕著な功績があった方を表彰しています。看護の日は、「看護の心、ケアの心、助け合いの心」を広く国民が分かち合うことを目的に、近代看護の基礎を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなんで制定されました。



5/28 JA愛知厚生連

JAあいち健康会議を開催しました。

5月28日、JA愛知中央会等と共にJAあいち健康会議を開催しました。JAグループ愛知全体で取り組むJA版ウェルビーイング運動の実践に関連した記念講演や健康講話を行い、組合員のみなさんにウェルビーイング運動を知っていただく機会になりました。健康ブースではベジチェックを用いて野菜摂取量を測定し、自身の食生活を振り返るきっかけにしていただきました。また、JA愛知厚生連よりJA活動の促進・育成に功績のあった5名の方に保健福祉表彰を行いました。



JA愛知厚生連のニュースは随時配信中

Webサイトは  
こちら



Instagramは  
こちら



ひろげようみんなの  
ウェルビーイング

JAグループ愛知では「JA版ウェルビーイング運動」に取り組んでいます。



ウェルビーイングって何だろう?

健康や幸せでいることを意味する言葉です。組合員や地域の人々の健康と幸せは、農業と地域に根ざす協同組合であるJAの社会的責任です。JAグループでは、農業者・地域の人々・JAで働く職員など、JAに関わる全ての方にウェルビーイングを広めます。



健康で幸せなくらしに必要なものは?

身体的な健康だけでは、幸せな人生とは言えません。精神的にも、経済的にも満たされていることが必要です。JAグループでは「JA版ウェルビーイング運動」と称して、3つの健康づくり、すなわち、心の健康、体の健康、お金の健康づくりに取り組みます。

JA愛知厚生連の取り組み

JA愛知厚生連では、医療・保健・福祉を通じて、組合員・地域の皆さまの「心と体の健康」を実現できるよう事業・活動に取り組んでまいります。

- 地域に必要とされる医療・保健・福祉を提供
- 健康維持・増進に向けた取り組みを強化
- サービス向上のため職員が十分活躍できる環境を整備



FOR WEB

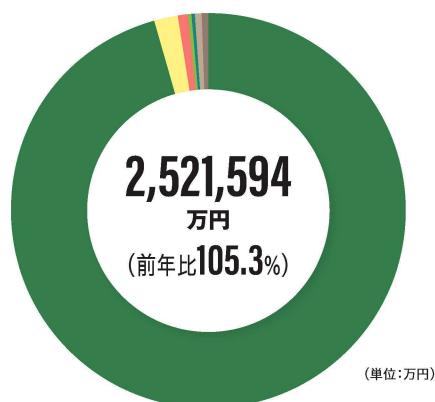
医療・健康・介護情報をわかりやすく発信

With Magazine

JA愛知厚生連が運営するWebマガジン  
です。医療・健康・介護に役立つ情報を、  
お届けしています。



## 事業実績



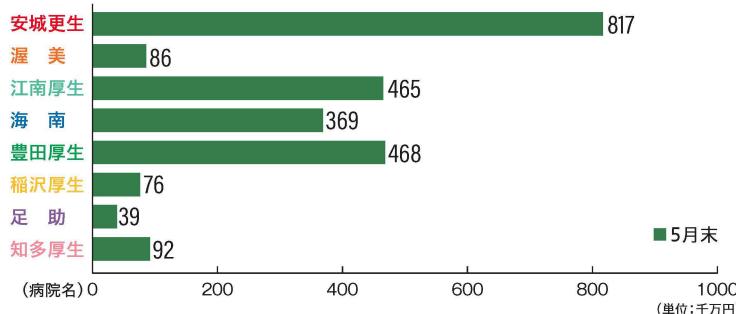
### 事業実績(5月末)

- 医業収益(除保健予防活動収益)  
2,414,324(前年比105.5%)
- 保健予防活動収益  
48,006(前年比97.7%)
- 老健施設運営収益  
22,055(前年比104.4%)
- 介護医療院運営収益  
3,808(前年比99.5%)
- 訪問看護収益  
10,263(前年比99.7%)
- 老人福祉事業収益  
14,490(前年比115.3%)

### 病院別患者数(単位:人)

病院名(ベッド数)	区分	患者数
		5月末
安城更生 (771)	外来	73,162
	入院	44,344
渥美 (316)	外来	22,321
	入院	13,891
江南厚生 (630)	外来	56,055
	入院	34,387
海南 (540)	外来	47,444
	入院	30,364
豊田厚生 (606)	外来	51,800
	入院	33,682
稲沢厚生 (225)	外来	22,428
	入院	11,782
足助 (148)	外来	9,534
	入院	6,630
知多厚生 (199)	外来	22,463
	入院	11,549
JAあいち健診センター	外来	37
合計 (3,435)	外来	305,244
	入院	186,629

### 病院別診療収入



## JA愛知厚生連の事業所

各事業所のInstagramはこちら



夏

JA愛知厚生連広報誌「With」 No.506 発行日/2025年7月1日 発行/愛知県厚生農業協同組合連合会

編集/本部 企画管理局 経営企画部 TEL 0561-62-3162 本誌に掲載されている内容の無断転載及び複製等の行為はご遠慮ください。

Webサイト

